

第39回番組審議会の審議結果について

1. 開催年月日 平成28年2月19日（金）11時～

2. 開催場所 （株）ケーブルメディア四国 会議室

3. 出席委員 （6名 出席）

吉田 完爾 委員長
加藤 昭彦 副委員長
四宮 徹
灘波 順一
北川 つき子
合田 恵梨子

4. 会社側出席者 杉本 耕治 （取締役社長）
大通 孝志 （放送部長）
田中江里子 （放送部編成制作課長）
溝淵 剛正 （放送部編成制作課主任）
大西 愛

5. 審議結果

議案の自主制作番組(別紙①,②)について担当ディレクター等より番組制作の意図などを説明した後、DVDを視聴した。これに対し、各委員から次のような意見が出された。

【戦後70年特別番組「高松空襲～語り部の軌憶～」】

- ・戦後70年ということで全国レベルで様々な企画番組があったが、高松市を対象としたものがなかったので貴重な番組であった。
- ・70年前の出来事で知らない事が沢山あり、感銘を受けた。是非とも後世に残していただきたい素晴らしい番組であった。
- ・毎年、7月4日前後に放送するなど戦争を風化させない番組として継続して放送して欲しい。
- ・戦争を体験した方がいずればいなくなってしまうが、伝承していくことが大切なので、これからもこういう作品を制作してもらい、番組として保存していくことが大切だと感じた。
- ・ナレーションをしている方の物悲しい語り口調やテンポが番組にあっており、流れているBGMも良い選曲だった。
- ・写真や絵が効果的に使用されており、説得力のある番組であった。

【TAKUMIKUMO ～香川のモノづくりのカタチ～】

- ・「TAKUMIKUMO」に焦点をあてたのが面白く、香川の伝統あるものづくりに若いメンバーが一生懸命取り組んでいるのがよくわかり、特産品の良さも十分伝わってきた。
- ・作品や職人の表情などが良く撮れていて、撮影技術が向上している。
- ・紹介されている作品を使って何かできないか、作者の方と出会って何かできないかなど様々な想像ができ、良い番組だと思う。
- ・行政としても「ものづくり」を支援しているので、こういった番組はテーマとして非常に良いと思う。
- ・個々の紹介は良かったが、「TAKUMIKUMO」としての紹介が少し足りない気がした。
- ・香川には漆器など良いものがあるが、アート中心になっていて日常に入りこめていないので、番組をとおして伝統工芸を体験できる場所や販売している場所も一緒にお知らせするなどインフォメーションを充実すれば、もっと身近になるのではないか。

【総括】

- ・両番組とも、企画・主旨・内容について非常に良い番組である。
- ・今後も、このような社会的に意義のある番組を制作し、意識して視聴者に選ばれる取り組みを行って欲しい。

議案 自主制作番組

番組タイトル	戦後70年特別番組「高松空襲～語り部の軌憶～」
放送期間・番組尺	平成27年8月1日～15日・58分42秒
番組コンセプト	太平洋戦争の終戦から70年を迎えた昨年、戦争体験者が減少していくこともあり、当社でも高松市で実際に起きた高松空襲をピックアップし風化させてはいけない戦争体験の伝承に努めることを目的に制作した。 また地域の放送局の使命として体験者の肉声や資料映像は当社の大切な資産として保存し、戦争体験を後世に繋いでいく。
番組内容	番組では高松空襲を取り上げ、空襲体験者に当時の様子や市民が戦争とどう向き合っていたかなどを聞き、70年前に高松市で実際に起こった悲劇を紹介している。 また高松市や個人が所蔵している空襲に関する資料や遺品・写真などを使い高松空襲の詳細を分かりやすく説明している。
出演者	インタビュー：空襲体験者（植田正太郎・戸祭恭子・喜田露子・喜田清） 高松空襲を記録する会 岡田昌子 会長 語り：田所笑美子
プロモーション	ホームページ・チャンネルガイド・ケーブルメディア四国 放送部フェイスブック
今後の動き	今回、高松空襲の体験インタビューにご協力していただいた方々は「戦争体験を後世に伝えていくことが、戦争で命を落とした人たちの弔い」という思いで出演してくださったので、戦後70年の節目だった昨年だけの放送ではなく、今後も8月15日（終戦の日）前後に放送していく予定。

議案 自主制作番組

番組タイトル	TAKUMIKUMO ～香川のモノづくりのカタチ～
放送期間・番組尺	平成27年7月16日～7月31日・29分
番組コンセプト	<p>香川には、盆栽や漆器、庵治石といった特産品がある。地域の歴史とともに歩んできた特産品は、職人の高度な技術によって支えられ、日本のモノづくりの原点ともいえる。</p> <p>しかし、高い技術で作られたモノの中には、敷居が高かったり、値段が高かったりと、現代の生活に取り入れにくいものもある。</p> <p>そんな中、伝統の技術を継承しつつ、より現代のライフスタイルにあったプロダクトが登場している。その取り組みを行っているのが、「匠雲」というグループ。香川のモノづくりを担う作家たちです。彼らは、伝統の技術を用いつつ、独自の工夫による新しい作品をつくり、異種の地場産品とのコラボレーション、新しい用途の提案を行っている。</p> <p>そんな「匠雲」がアプローチする「香川の新しいモノづくりのカタチ」をより多くの人に知ってもらうことを目的として今回、番組制作を行った。</p>
番組内容	<p>番組では、新しい取り組みに果敢に挑戦する「匠雲」のメンバーを取材。</p> <p>それぞれのモノづくりの現場に伺い、作品や技、思いをインタビューするほか、作品をさりげなくオシャレに生活空間へ取り入れる技などを提案してもらう。</p> <p>また、昨年8月に開催されたイベント内容についても紹介</p>
出演者	匠雲の作家9名
プロモーション	ホームページ・チャンネルガイド・匠雲が開催したイベント会場（披雲閣）で番組放映
今後の動き	<p>今年、匠雲は、高松市の姉妹都市であるトゥール市に発信していく計画（1月トゥール市でPR・夏にグループ展）があるので、「世界へ挑戦」というかたちで彼ら取材したい。</p> <p>又、匠雲のように地元で活躍する多くの若手作家を紹介できるような番組を県や市と共同制作していきたい。</p>